

北海道文教大学 後援会 後援会報

No.
16

CONTENTS

後援会活動・事業中間報告	1
理事長・学長挨拶	2
キャンパスの現況	3
就職部便り	4

平成28年2月29日(月)

発行責任者 中上 美伸
発行係 〒061-1449 北海道恵庭市黄金中央5丁目196番地の1
北海道文教大学事務局学務部学生課内
北海道文教大学後援会 TEL0123-34-0011

平成二十七年 後援会活動・事業中間報告

北海道文教大学後援会 会長 中上 美伸



はじめに

会員の皆様におかれましては、日頃から後援会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、北海道文教大学は「実学重視」を重んじ、人として生きていく上で重要な「豊かな人間性」「健全な社会性」「高度な専門性」の養成を行いながら、学生一人ひとりが自分の「なすべきこと」を自覚し、そして自己実現に向けられるよう、入学からきめ細やかなサポートにより様々な実績を上げております。学びの質は社会で評価されており、就職率では道内私大の中でトップという圧倒的な就職力を誇り、また、各学科国家試験合格率においても全国平均を大きく上回る高い合格率を維持するなど、その実力は結果が示す通りでございます。

このように順調な歩みを進められたのも、旺盛な気力で勉学を積み重ねる学生はもちろん、学生を支えているご家族の皆様、真摯な努力を惜しまず、学生のあらゆるチャレンジを積極的に支援する大学教職員の皆様、そして本学の建学理念に理解を示し、いつも大きく包み支援して下さる地域の皆様など、関係する方々のお力によるものであり、北海道文教大学は学生やそのご家族、地域にとって誇り・プライドになっております。

後援会は、大学と学生・会員を結び、大学の充実・発展や学生の為に今何ができるかという視点を持ち、様々な活動を進めております。今回の後援会会報十六号では、本年度の下半期の事業についてご報告いたします。

下半期の主な事業

(一)平成二十七年父母懇談会(第十七回大学祭の食券助成事業)

一日 時 平成二十七年十月十一日(日)
午前十時より

二 会場 大学本館二階大講堂ほか

三 内容 大学より、学生生活について報告及び学科説明があり、その後、各担当教員との個別面談が実施されました。

参加された父兄には、大学祭食券千円分を後援会から提供しております。

(二)前期に引き続き「〇〇円朝食」実施助成事業

一 実施期間 前期 五月十八日～七月二十九日
後期 十月一日～十二月十一日
期間中 八時から九時までの営業

二 会場 学生会館「学生食堂」

三 内容 「美味しく、健康に！」を合言葉に、学生に朝食を習慣付けてもらおうと昨年度試行し、十分な成果を得られた「〇〇円朝食」ですが、今年度は正式な助成事業として実施いたしました。後援会からは、実費四〇〇円のうちその差額を助成し、期間中の毎日八〇～一五〇食を提供できるように計画、大学側の全面的なバックアップにより、多くの学生が利用しました。

(三)第二回役員会

一日 時 平成二十七年十一月十三日
十八時三十分～二十時三十分

二 会場 ホテルガーデンパレス札幌

三 出席者 後援会理事十五名
大学(理事・幹事)五名

四 審議事項

(一)平成二十七年 度中間決算について

(二)平成二十七年 度追加事業について

① 下期予算執行計画について

② 追加補助事業について

(三)その他

① 創立七十五周年記念事業にかかる募金について

② 前期「〇〇円朝食」の実施状況について

③ 平成二十八年 度新規補助事業計画について

今後の日程

(一)第三回役員会

平成二十八年三月二十五日(金)大学

(第三回WG 二月十九日 札幌)

(二)平成二十七年 度学位記授与式

平成二十八年三月二十一日(祝月)大学体育館

(三)平成二十七年 度卒業祝賀会及び同窓会入会式

平成二十八年三月二十一日(祝月)札幌

おわりに

先日、歴代の後援会会長お二人にお会いする機会がありました。当時の想いを熱く語る姿は、誇りと暖かさに満ち溢れており、今も全く変わっていませんでした。様々なお話をさせていただきましたが、後援会活動を引き継いでいる者として、改めて皆さんと共に様々な想いを繋げられる活動ができればと感じた時間となりました。

今年度もあと、学位記授与式・卒業祝賀会を残すのみとなりました。今年卒業の学生の皆さんには、ぜひ、北海道文教大学の誇りを繋いでいただくことを期待したいと思います。また、後援会も新年度の体制へ準備を整える時期となつて参りました。私どもと一緒に次年度の役員としてご協力いただける方、どうぞ宜しくお願いいたします。

理事長・学長挨拶

「おもてなし・おかげさま」と大学教育

学校法人鶴岡学園 理事長
北海道文教大学 学長

鈴木 武夫



昨年末に来日した「ヨーロッパの知性」と称される経済学者の講演の記事がふと目にとまりました。彼は「リスクとテロに満ちた世界情勢」を見据えています。そして最後に、「私は日本の持つ利他主義のイデオロギー（考え方）に希望を見出します。日本の学者や政治家がもっとそうしたイデオロギーを発信し、日本の社会が利他主義のプロバガンダ（主張者）になって欲しいと願っています」として講演を締めくくっております。

「利他主義」とは耳慣れない言葉ですが、「周囲の人々の利益を優先して、社会に貢献することを自分の喜びとする」というようなことではないでしょうか。

これを日常の言葉に直しますと、我が国の伝統である「おもてなしの精神」であり、「おかげさまという生活態度」であると思われまます。

この記事に触れて、私も意を強くしました。大学の教育機関としての使命は「質の高い特色のある教育をすることによって、世界の平和と地域の繁栄と人間社会への貢献にいかに取り組んでいくか」ということであると考えます。

本学におきましては、「質の高い教育」を保障するものとして、すでに大学院二研究科を設置しておりますが、加えて理学療法と作業療法の分野での「リハビリテーション科学研究科」と、「こども発達学研究科」の設置を申請する方向で準備中です。平成二十九年四月開設を予定しております。残る看護学科につきましても近い将来での設置を期しております。

「特色のある質の高い教育」を実現するためには、施設設備の充実にも取り組まなければなりません。本年秋には「鶴岡学園記念講堂」の竣工も予定されておりますが、記念講堂の増築計画の中には図書館の機能の高度化も含めております。

完成後は学問研究発表の発信基地として、地域の皆様にも大いに活用していただきたいものと考えております。その他キャンパスの教育環境の充実も優先順位に従って着々と実行していく所存です。

もうひとつの重点は、学園全体として、常に「学生とその保護者の皆様の満足度を高める教育」を基本的姿勢として確認しながら進みたいと考えます。

学生諸君は大学に大きな希望を抱いて入学してきてはまずであり、保護者の皆様もそれに賛同し夢を共有して大学生活を支援してこられたはずであります。

私たち本学教職員一同は「学生とその保護者の皆様に満足していただける教育」を肝に銘じて努力を重ねて参ります。

後援会の皆様の深いご理解と、力強いご支援を心からお願い申し上げます。



鶴岡記念図書館閲覧室及びラーニングcommons(グループ学習室)で自主学習する学生たち

キャンパスの現況

北海道文教大学

副学長 橘内 勇



平成二十八年の干支は、皆さんご存知のように申(さる)です。この干支は古代中国の発祥ですが、わが国では江戸時代に、時間や方位、あるいは暦として広く人々の生活において利用されるようになりました。農業用の暦では、「申(さる)」は伸ばすという意味があり、「草木が十分に伸びきった時期で、実が成熟して香りと味がそなわり固く殻に被われていく時期」とされています。

そんな期待の持てる一年ですが、本学でも長年待ち望んでいた鶴岡学園記念講堂が十一月末に完成します。この講堂の収容定員は六六八人と本学の建物の中では一番広く、今後は本学のシンボリック建物として、今後の学術研究の発展につながる利用が期待されています。

本学では、後援会のご理解とご援助を受け、多くの事業を行っていますので、その一部をこの紙面をお借りし、報告させていただきます。

(学生数)

近年は少子化の影響で、一部の大学では学生の定員割れによる経営危機が懸念されていますが、本学では全体として収容定員を若干上回る数で推移し、安定的な経営となっています。平成二十七年十月一日現在、本学の学部、大学院含めての学生数は、収容定員二、二七八人に対し、二、三五二人(収容定員に対する割合は二〇八・〇%)となっています。

(クラブ活動)

本学の学生は、ほとんどの学科で学外実習が課せられており、そのためクラブ活動を円滑に継続したい現状にあります。全体としては四二団体(体育系二二団体・文化系二二団体)が活動して、文武両道の学生生

活を送っています。その中で、空手道部・スノーボード部はインカレ出場、女子アイスホッケーは日本代表候補になるなど大活躍をしています。

(奨学金)

今年度、奨学金受給の学生は二、三四二人で学生全体の五七・二%、そのうち多い順より、日本学生支援機構、北海道文教大学奨学金、市長村その他の奨学金となっています。学生の二人に一人は奨学金を必要としており、今後も奨学金の充実が望まれます。

(新入生宿泊研修)

今年度、後援会の補助をいただき、初めて新入生宿泊研修を北湯沢温泉にて実施しました。新入生五五人、サポーター学生六人、教職員十九人の併せて六三三人がバス十六台に分乗しての大移動でした。大学に入学期もない学生には、この宿泊研修を通じて大学に早く馴染めたと大変好評でしたので、次年度も実施する予定で現在、準備中です。

(国家試験合格率)

国家試験を課せられている医療系の学科では、日頃から熱心に学修に取り組んだ成果が現れ、いずれの学科も国家試験の合格率が全国平均を上回っています。なお、この高い合格率を達成させるために、後援会からの補助が模擬試験や教材の購入等で役立っています。

昨年度卒業者の国家試験の合格率は、管理栄養士八五・四%(全国平均五五・七%)、理学療法士九八・八%(全国平均八二・七%)、作業療法士九一・七%(全国平均七七・五%)、看護師九六・八%(全国平均九〇・〇%)でした。

なお、今年度の国家試験日は以下のとおりです。学生達の頑張りを期待しています。

国家試験名	試験日	合格発表
看護師国家試験	平成28年2月14日(日)	3月25日(金)
理学療法士・作業療法士	平成28年2月28日(日)	3月29日(火)
管理栄養士国家試験	平成28年3月20日(日)	5月10日(火)

(大学院研究科の設置)

本学では将来的に全ての学科に大学院を設置し、本学の卒業生が、将来、働きながら学び、高度専門職業人や研究者を目指す環境を整備中です。平成二十七年四月に健康栄養学科を基礎とした健康栄養科学研究科(大学院修士課程)がスタートしました。今年度は、理学療法学科と作業療法学科を基礎とした「リハビリテーション科学研究科(大学院修士課程)」、こども発達学科を基礎とした「こども発達学研究科(大学院修士課程)」の申請に向けて準備中です。

(百円朝食の実施)

百円朝食は、本学では平成二十六年に一ヶ月間試行の結果を受け、平成二十七年度は後援会からの補助を受け、年間百日の目標で実施しました。前期は五月十八日から七月二十九日まで、後期は十月一日から十二月十一日までと、他大学と比較しても圧倒的に長い期間の実施でした。学生からは今年も非常に好評で、日平均七三・三人が利用する結果となりました。

(運動設備等の環境整備)

テニスコートは当初の設置から経年変化で、ネットの破れ、コート面が荒れた状態が目立ちましたが、この秋に後援会の補助を受けきれいに修復されました。また、運動系のクラブ活動では脱水症を防ぐために、後援会の援助で体育館内に製水機が設置される予定です。

新入生宿泊研修 4月11日(土)~12日(日) グループワーク



与えられた課題(大学祭で模擬店を出店しよう)で学生は班ごとに分かれて意見を出し合い、まとめ、ポスターを作成しました。

就職環境及び学生動向について

北海道文教大学 就職部

二〇一十六年三月卒業生の就職活動は大幅な日程変更の中、終盤を迎えています。日程変更の内容は、企業の広報活動が十二月から翌年三月に、面接などの採用活動が四月から八月に繰り下げとなりました。その結果、学生の就職活動には、大きな変化が現れました。

応募する学生側の動向は、大きく二極化の傾向が見られ、一月から早期に動いている学生と、八月の大手企業・官公庁採用試験を見越し、動かない学生も出てきました。今年の採用スケジュール変更により、中堅・中小企業は大手企業より先行して内定を出す結果となり、早期内定を得た学生は、第一志望の企業を目指し再び就職活動を続けました。「学業優先」「学習時間の確保」がルール変更の目的でしたが、結果として就職活動の長期化を招き、学業への影響も出るようになりました。

八月以降は大手企業・官公庁が採用活動を本格的に開始する一方、鞍替えする学生の影響で、中堅・中小企業の内定辞退者が発生し、採用計画が達成できず、見直しによる再募集が十月以降に発生した企業もありました。それに伴い企業によっては、内定者の囲い込み、採用意思確認が厳しく実施されました。

就職部では、個別学生の意向を捉え、企業動向・採用計画のタイムリーな情報、企業分析から応募企業選択の判断材料等を、学生二人ひとりの進路指導に反映しました。また、八月には未内定者向け学内セミナーを開催し、学生の不足している部分を個人別にフォローすることで、内定への近道になる総合的アドバイスを実施しました。

今年度の状況を踏まえ、来年度（二〇一十七年三月卒業生）からの就

活日程は、選考解禁が六月開始と二ヶ月前倒しする方針が決まりました。「二ヶ月前倒し」と近年の企業動向から、インターンシップ実施企業の増加が見込まれます。学内インターンシップ奨励と同時に、希望者が多い地元北海道企業のインターンシップ情報を集約し、早期選考開始に対応する所存です。

学内就職講座・説明会・セミナーの実施状況

就職部が主催する講座は、各学科に関わる共通講座と、学科毎の特徴を生かした単独講座の開催があります。

医療系の三学科(理学療法学科・作業療法学科・看護学科)は、昨年の三月に四年生を対象とした「就職準備講座」を実施するとともに、三学科とも最終年次の実習スケジュールを睨みながらの就職活動となりました。

看護学科は四月十六日に「就職講座」を開催するとともに「小論文・面接対策講座」を行い、試験日程の早い公立病院や大学病院を皮きりに、六月からの実質的な就職活動のスタートに備えました。

理学・作業療法学科は八月二十八日に「PT・OT学内就職説明会」を開催し、本格的な就職活動に入りました。この学内説明会には採用実績のある病院を中心に、七十ヶ所の医療機関が参加しました。説明会に参加した病院に毎年五割以上の卒業生が就職している実績もあり、全員が真剣な表情で志望先病院の情報収集を行いました。

国際言語学科・健康栄養学科では、八月三日に「就職リ・スタート講座」を開催し、学生の状況を個別に分析して、本人に適した早期就職の道筋を立てました。また、両学科では企業単体による学内単独説明会も実施しました。学外の合同企業説明会への参加学生は、毎年減少傾向

■平成27年度 学内就職講座・セミナー開催一覧

実施日時	タイトル	内 容	対 象
平成27年4月16日	看護学科就職講座	小論文・面接対策講座	4年生
平成27年6月10日	留学生就職支援セミナー	日本で就職する方法・心構え	留学生
平成27年6月17日	保育業務実践講座	現役園長による保育業務説明会	4年生
平成27年8月3日	就職リ・スタート講座	就職未内定者対策講座	4年生
平成27年8月10日	公務員チャレンジテスト	公務員試験受験希望者	3～4年生
平成27年8月20日～26日	ファイナンシャル・プランニング講座	FP3級検定試験対策講座	全学年
平成27年8月28日	PT・OT就職説明会	70病院・施設の合同説明会	3～4年生
平成27年10月13日～16日	R-CAP受験	自己発見診断テスト	2～4年生
平成27年10月23日	幼稚園キャラバン	北海道内幼稚園教諭による業務説明会	3～4年生
平成27年11月18日	R-CAP解説セミナー	結果解析・就活における活用方法の解説	2～4年生
平成28年1月14日	知らないと損する社会のルール	働く時のルール(労働法、コンプライアンス)	4年生(内定者)
平成28年2月8日	就活スタート支援講座(第1回)	就職活動本番対策:集団面接講座	3年生
平成28年2月9日～25日	公務員試験対策講座	公務員・教員採用・一般企業筆記試験対策	全学年
平成28年3月実施予定	就活スタート支援講座(第2回)	就職活動本番対策:面接&グループディスカッション講座	3年生
平成28年3月実施予定	医療系就職直前対策講座	理学・作業・看護学科による実践講座	3年生

向にある中、学内で企業人事担当者の話を直接聞くことのできる貴重な機会となりました。

全学科を対象とした講座として、「ファイナンシャル・プランニング講座」「R-CAP受験(自己診断テスト)」「公務員試験対策講座」等を実施しました。また、今年から新しく、こども発達学科の「幼稚園・保育所学内説明会」を開催しました。複数事業所の現役園長による講話とQ&A方式による学生参加型セミナーは、学生・教員共に好評を博しました。

今後の講座開催は、学生の就活基礎能力向上を図り、その時の求人動向を考慮しながら、より効果的な就職講座・セミナーの開催を実施する所存です。